

こ。む。し。こ。む。さ。

薩摩治郎八

パリやロンドンに住みついた人間が銀座に戻ってきてきたナラシク感じることは喫茶店の女店員が制服でなくスーツやワンピースにハイヒールを着こんでいることだ。ウエイトレスにはウエイトレスのエチケツトがある筈だ。レジの女性なら免に角、菓子やお茶をサービスするウエイトレスがモデル気取でいるなんてナンセンスはあまりに客を馬鹿にしている。

「よい時代」の銀座ではキャバレーの女給までにエプロンをかけさせていたものだ。ウエイトレスがこんな調子なのだから客種も客種で帽子を覆たまま座りこんでいる。こんな不行儀な店はオリンピックまでに全廃して貰いたいものだ。大衆店では子供がワメキたてる。高級店と称する店では青線の雰囲気グインと鼻をつくでは外人がみたらマドロス対手の港の酒場だ。飲食店だけはサツバリと清潔な空気が漂っていないと大都会東京の表玄関の銀座の面目はたたない。

こうした店がハンランする銀座で街のダニやチンピラが市をきかしているのは当然だ。コロパンのような洗練したお菓子を清潔にサービスする店だけが残る。ジャズ喫茶、美女喫茶、水着喫茶等々のアイマイな店が風俗営業の部門に入れられるのが本筋ではないだろうか？ そうすれば銀座はその品格を取り





戻して柳の並木の風情も万人に親しまれる場所となると思う。お菓子とお茶を楽んでる隣席で商談に花を咲かせているブローカーだとかナワバリ相談に耽っているヤクザがトグロを巻いているのでは雰囲気は消えてしまう。銀座に浸透してきた場末気分は戦後の傾向だが、パリの菓子店のようにシヨピングついででシツクな女性がブイと店先に飛びこんできてセツセと菓子を選んで立食いでゆかれるような店があってもよい。オシャベリはオシャベリで座りこみ、立ち食いはアツサリ店先で小皿に摘みとって食べてゆく。ヤクザ調なぞ、ミジンもない堅気な店の気風がせめて銀座だけでも生れるとよいと思う。もっとも東京の奥様方はあまり菓子店で会合しないようだし、摘み食いはなおさらのこと稀れだからや商談族ばかりが利用するようになるのかもしれない。もっと楽しい社交的なムードを持つ店がふえてもよいのだ。

銀座でこまるのは女給族が出勤前に腹ごしらえに菓子店などに集ってくることだ。ウツカリ店内でメツカろうものなら、よい鴨とばかり狩り出される危険さえある。そうなれば店の格も下がる。その殿方救助策からいっても奥様御嬢様方がモット堅気の店に集ってくる必要がある。そうなればパパ、兄上達は夜の女性に狩り出される危険も減ずることだ。

西欧の大都会の生活の楽しさはどこへいっても家庭的で格が備えていることだ。各箇の人間がよくその分を守って決してそのワク内からハミ出さぬという規律だ。ヤクザはヤクザ同志、紳士淑女は彼等同志集る場所が異なる。学生に至っては学校近隣のカフェを利用する以外余程の不良でない限り盛り場にまでハミ出してくることは絶対がない。パリならせいぜい実存主義カブレでサンジェル

マン・デ・ブレのカフェとか学生向きのダンスング位でトグロを巻く。シャンゼリゼにしろ、ヴァンドーム広場近辺にしる大人だけの世界なのだ。子供は子供の社会、青年は青年の社会、紳士淑女は彼等だけの世界でケジメを正しくつけて楽しみ合っている。子供や未成年者が大人の社会の誘惑にかかるといふ危険はありえないことなのだ。子供が大人の流行にかぶれるといふ危険は起りえない。

銀座は大人の盛り場なのだから学生や子供の世界ではない。この辺が日本の都会生活の矛盾なのだ。パリのエツフェル塔が観光客の世界だとすれば東京タワーも地方客の世界だ。ここまでは東西同様なのだが都心の映画館や盛り場の店が大人、未成年者混入なのは日本人の社会の特異さだ。パリの学生街カルチエラタンを若い女性が銀座を練り歩くようなスタイルに帽子でも覆って歩いたと仮定したら、学生達から「シャツポ、シャツポ」と嘲笑の雨を浴びせられるのは必定だ。女学生が銀座をワンピースにハイヒールでカツ歩するのを見逃すのは日本人だけでパリでは考えられないことだ。良家のお嬢さんなら母親が同伴するとか余程気の知れた家庭に出入する男友達をつけて出す以外一人歩きはしない。ましてや家庭のお嬢さんの口からポイフレンドなんて言葉はモレえないのだ。何々君はポイフレンドよなんて表現が何等の恥らしいもなくかかれる東京もパリに住みついた私などには驚異といえる。一時銀座マン族の話題となった荷風散人の三千万の遺産談議も失礼よりも噴飯ものだ。中間読み物を書く物書き先生の僅か一ヶ年の収入額を一世の文豪が一生かかって残したという方が不思議でそれに驚異の耳をそば立てる銀座族こそ奇怪な人種だ。